

生協強化月間 仲間をふやそう!

11月累計

4月～10月

あかるいまち21

No.1083号 2017年11月17日 組織部 TEL082-532-1264

組合員ふやし

77人

750人

出資金ふやし

476万円

6270万円

純増

▲149万円

876万円

福島支部 恒例バスハイクで湯～ったり、乾杯!

11月7日(火) 素晴らしいお天気に恵まれ、福島支部では23名で呉市安浦町にあるグリーンピア安浦へ行って参りました。

行きかえりのバスの中からの景色は、ところどころ紅色や黄色に色づき、久しぶりにゆったりとした気持ちで眺めることができました。

温泉に湯～ったり浸かり、日ごろの疲れを癒したあとは、冷たいビールで乾杯、海の幸をしっかりと堪能しました。みなさんで英気を養い、明日からの元気をもらいました。

尚、この日の生協強化月間の訴えに
応えて、31,000円の増資が集まりました。



福島生協病院の生協強化月間推進委員会

～大越副理事長による学習講演～

福島生協病院では、各職場の推進委員さんが集まって「生協強化月間推進委員会」を開催しています。5回目となる11月15日の委員会では、大越和郎副理事長を講師に招いて、大越さんご自身の生協との関わりを通じて、中央保健生協の歴史的役割などを話していただき、月間成功のために共にがんばりましょうとの呼びかけがされました。

講演ではまず、私たちの「生協」も含めた「協同組合」による事業と活動は、「世界で一番企業が活躍しやすい国をめざします」と明言する安倍首相の立場とは対極に位置し、企業の支配する社会から、人が主人公になる社会をめざすものとなっていると切り出されました。草津診療所を建設する頃から中央保健生協との関わりを持ち始め、生協さえき病院建設を前に理事に就任されたそうです。その間、激しい医療・介護制度の変遷に対峙し、組合員と職員が知恵と力を合わせて生協の活動を進めてきたとの歴史的役割も語っていただきました。最後に、骨折による入院経験について、他院では2人部屋で1日4,500円の差額ベッド代がかかり大変な負担になっていたが、福島生協病院に転院することができて安心しましたとのこと。



この安心を、この月間を通じて多くの方に広げ、加入へとつなげていきたいですね、大越副理事長、ありがとうございました。

加入へとつなげていきたいですね、大越副理事長、ありがとうございました。

協同組合がよりよい社会を築きます